

令和7年度 兵庫教育大学附属小学校 学校経営計画

1 めざす学校像等

【はじめに】

昨年度は、学校評価でも記載したように、カリキュラムマネジメントに努めながら、教科の授業改善による児童の学力向上や大学との共同研究によるSTEAM教育、さらには新たな「スポーツフェスティバル」やSTEAM単位と関連させた「附小っ子学園祭」を新設するとともに、「宿泊行事」も再構成し成果を挙げた。このことは大学からも高い評価を頂いたところである。

これらの成果はすべての教職員が、取組の重点の第1である「気持ちのそろった校内組織・教師集団づくり」を基盤として、ベクトルを揃え取り組み努力した成果である。今年度もこの点を最重要として学校経営を推進する。

自分たちで作ってきためざす学校像等に基づく取組の3年目を迎えるに当たり、新たな教職員を迎え、お互いに尊敬しながらも切磋琢磨し、その成果を児童に還元するよう努める。それらを通して、附属学校のさらなる魅力化を図る。

○ 学校像

先端的な教育環境のもとで、幼稚園、小学校、中学校の12年間を通して、園児・児童・生徒、教職員、保護者が一体となって、地域社会と連携しながら、一人一人の子どもの学びと成長が保障される創造性豊かな学校をめざします。

○ 子ども像

これからの社会において必要とされる情報活用能力を身に付けるとともに、主体的かつ対話的な教育活動を通して、心身ともにたくましく、未来を切り拓いていける知的創造力と寛容性を兼ね備えた、グローバル社会で活躍できる人間を育成します。

○ 教員像

全国の自治体から附属学校園に派遣される教員が、附属学校教員としての自覚をもち、互いに敬意をもって高め合い、学校における働き方改革を踏まえながら、先進的で優れた教育実践に取り組み、地元自治体の中心的な教員として活躍できる資質・能力の向上に努めます。

学校教育目標

「人間として生き抜く力を育てる」 ～夢に向かって挑戦し続ける人の育成～

「学ぶ」ことの大切さ、楽しさを知り、「学び」の本来の意義を理解し、生涯にわたって「学び」続ける力と確かな「人間力」
子ども像の実現のために学校として大切にすること

- I 基礎となる学力 II これを駆使してより深い学習を自ら求めていく探究心（学習力）
- III 豊かな感性 IV 他者の立場で物事を考える思いやりの精神
- V 多くの人から愛される立ち居振る舞い

学校運営目標 校長として大事にしたい姿勢

「教員も児童も成長を実感できる学校」「研究と学校改善が一体となった学校」

「行きたくなる学校～子どもも、保護者も、教員も」「伝統は革新の連続である」

・「人間として生きぬく力を育てる」学級づくり・学校づくりを学ぶ。

学校経営、教科指導、生徒指導、STEAM教育、地域と共にある学校

・「地元に帰ってからも活躍できる教職員をはぐくむ。」

・「子どもが最も大事、子どもに力（測れる力と測れない力）をつける」

2 中期的目標

1 気持ちのそろった校内組織・教師集団づくり

（1）管理職による的確なガバナンスと管理職を含む教職員間の関係づくり

学校運営における様々なルールの明確化と管理職の理念浸透

（2）教職員間が互いに助け合い、多様性を認め、協力して同僚性を高めること。

管理職、ミドルリーダー、学級担任、特定教諭、非常勤講師がそれぞれの責任を果たす体制づくり。校務分掌の不断の改善。

積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、1年目の教員も含めて担任団や校務分掌から学校経営計画の実現に向けた改善策や新たな取り組みが、積極的・効果的に提案される学校風土を醸成する。

（3）指導と評価の一体化の確立

良い授業の結果として、児童の測れる学力の向上をも検証するため年度終わりに行う学力テストや質問紙調査等により検証し、自己の授業や学級経営を振り返り、授業改善やカリキュラム改善の参考とする。（東京書籍の学力テスト12月及び全国学力学習状況調査の状況の分析検討）

2 大学との共同研究の充実（関連 4（1） 5（1））

（1）「個別最適化」と「協働的な学び」の実現をめざし、「先進的」な授業改善に取り組む。

（2）大学との共同研究の推進

強固な大学との協力の下、教員養成フラッグシップ大学を構成する附属小学校として、一層 STEAM 教育の共同研究に努め、その成果を発信する。
STEAM 教育と教科に関する研究の取組。インテル STEAMLABO を活用した取組。キュレーションの取組充実。

3 安全・安心な学校づくり

（1）いじめの未然防止、特別支援教育の充実、組織対応・早期対応の推進

昨年度創設した附属学校教育相談室が機能し始めている。さらに平時から児童や保護者への相談・支援体制の充実を図るため、今年度は、新たに「子ども発達支援医」「スクールロイヤー」を配置することとした。これらを活用し、生徒自身の身体的・精神的な医療的見立てやケア、また保護者の精神的ケアが必要な事案や、学校園に対する過度の苦情など不当な要求に対する法的対応が必要な事案、さらにこれらの要素が複合する事案などに適切に対応し、高い専門性を必要とするだけでなく、対応が長期間に渡ることが多い教職員の業務負担や心理的負担の解消に努める。

加えて、スクールソーシャルワーカーを小学校にも派遣するために時間増を図り、自治体の福祉部門との連携についても丁寧な対応に努める体制づくりを行う。（チャレンジルームの適切な活用を含む）

（2）教科や特別活動、総合的な学習の時間等における様々な取組を通して相手の立場を考え、違いを認め合う児童集団を形成する。

（3）発達段階に応じた授業規律、生活規律等の検討と統一した指導。どの学年も新たに赴任した先生と共に統一して指導できる指導ルール of 明確化

（4）コロナ後に全国的に増加している不登校児童について、長期欠席の理由を可能な限り把握して、附属学校教育相談室の適切な活用等により、組織的なアセスメントと対応に努める。

4 附属学校としての新しい文化の創造

（1）カリキュラムマネジメントの推進（関連 2, 3（2） 5（2））

①昨年度ミュージカル活動を中心としたカーニバルを廃止し、1 学期「スポーツフェスティバル」と 2 学期宿泊行事、3 学期「附小っ子学園祭」に再編した。このことにより、夏の猛暑における子どもの安全を確保するとともに、STEAM 教育と関連させた年間を通したバランスの良いカリキュラムとなった。また、保護者の肯定的評価も高くさらにこの取組を充実させる。

②総合的な学習の時間を STEAM 教育に一本化し探究学習の充実に努め、各教科との関連、転移等を踏まえたカリキュラムを創造する。STEAM 教育を本校の魅力化の柱の一つとする。

（2）働き方改革の推進（子どもと教職員の「Well-being」）

新しい行事の創造・再編等の取組が進められるにつれて、働き方改革への意識が少し希薄となっている感がある。働き方改革の推進の目的は限られた時間を、研究の推進や教育活動の充実のために有効利用するためであることを忘れてはならない。ノー残業デーなどの大学と一致した取組の一層の推進を図る必要がある。

①全国の附属学校の課題である働き方改革の確立。在校時間の適切な自己管理、時間外勤務の適切な取り扱い、会議の短時間化等の取組を推進する。時間外の会議の原則禁止と計画的な会議の効率化や休憩時間確保等の改善。

②地元自治体の働き方改革のリーダーとなるタイムマネジメント能力獲得。管理職だけではなくミドルリーダーによる時間管理

③新しい人事交流先との協定締結と計画的な拡大

（3）学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の効果的な運用（関連 5（5））

コミュニティ・スクールとしてガバナンスを重視し、学校運営の安定性継続性を充実させる。さらに、学ぶ意欲がある「地域の教員の知の拠点」をめざす。附属学校ならではの効果的で意味あるコミュニティ・スクールの取組としての研究を推進する。

昨年度充実した加東市教育委員会と連携した特別支援教育の研修会や、学会関係の行事が本校を会場として行われる機会を今年度も大切にする。

（4）実地教育の改善・充実（関連 2）

大学の重要なカリキュラムであり、附属学校の本務である実地教育の一層の DX 化も含めて充実した実地教育をめざす。特に授業の録画配信及びキュレーションに関わる施設整備が今年度進むことから、新しい充実した設備の下で、大学と連携し新たな実地教育の推進に取り組む。

5 魅力的な学校づくりの推進のための 5 つの視点

（1）校種間連携の推進（関連 2（2）, 3（4） 5（6））

附属学校園合同の学校安全事業の取組や小中合同の研究発表大会の開催また工事中の附属中学校による附属小学校の施設利用等を通して、予想以上に昨年度校種間連携が進んだ。今後さらに両校教員の信頼感を一層深めて、附属小・中学校がより一致した方向性で改革を進めていきたい。そのため附属小学校と附属中学校間の人事交流等によって、一貫教育の具体的な取組推進とそれができる人材育成をより一層進める。

さらに附属小学校入試では、新しい附属学校園連絡進学 of 在り方改革に着手する。また、入試に臨まねばならない 6 年生の進路指導の充実のための、制度改革と体制づくりに取り組む。

（2）新しい特別活動、学校行事の創造。（関連 3（2）, 4（1））

①昨年度ミュージカル活動を中心としたカーニバルを廃止し、1 学期「スポーツフェスティバル」と 2 学期宿泊行事、3 学期「附小っ子学園祭」に再編した学校行事のさらなる充実を図る。

②総合的な学習の時間を STEAM 教育に一本化し探求学習の充実に努め、各教科との関連、転移等を踏まえたカリキュラムを創造する。STEAM 教育を

本校の魅力化の柱とする。
(3) 知の森・アートの森基金事業の推進
図書館の魅力化と地域開放、STEAMラボ等を活用しコミュニティ・スクールとして推進する。児童だけでなく大学生や大学院生も関わって中庭で充実した活動ができる様に児童と共に作り上げる活動を検討する。
(4) 異文化理解教育、国際理解教育の推進
大学グローバル教育センター等との連携により、日常的に留学生との触れあいの機会や異文化理解教育、国際理解教育を推進し、世界で活躍できる土壌を児童期から醸成する。令和7年度8月に児童・生徒の外国（フィンランド）への短期留学訪問を継続する。また、今年度と同様、児童がオンラインによるカンボジアやフィンランド等海外の子どもとの交流機会を確保し、児童のみならず附属学校教員による台湾やカンボジア等交流のある海外の学校への派遣研修交流を今年度も積極的に推進する。
また、今年度はオーストラリア等オセアニア地域の学校の交流先開拓に着手する。
(5) 「教員養成の知の拠点化」推進（関連4（3））
地元教育委員会の教科研究会等への参加や兵庫県教育委員会・研修センター、適正な研究団体との連携に努め、本校を実践研修の場としての活用を進めることや、自治体単位で行われている研修や研究会を本校で開催することも工夫する。それらの発信を通して、附属学校の存在価値を高め、新任教員、学部卒業生、実地学生、附属学校教員の資質向上に貢献する。また、附属学校園が共同して、地域に貢献する附属学校公開講座の開設を検討する。
(6) その他 入試制度の改善、ミドルリーダーの成長

3 今年度の重点目標と具体的な教育活動等

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価と学校関係者評価 達成状況（4段階評価）
1 気持ちのそろった校内組織・教師集団	(1)大学・管理職による的確なガバナンスによる学校運営 (2)教員やPTAに対する管理職の理念浸透と管理職を含む同僚性の醸成 (3)教員の指導実態と子どもの学力実態の把握と改善	(1)学則に則った学校運営。理念浸透、保護者向け附小だよりと教職員向け校長通信、人事評価制度の適切な活用 (2)学校教育目標達成のための取組の推進状況 ③校務分掌の改善。管理職、ミドルリーダー、学級担任、特定教諭、非常勤講師等がそれぞれの責任を果たす体制づくり。 (3)アンケートと全学年学力テストを行い、教員がその間の指導状況を自覚する。指導と評価の一体化	(1)学長及び大学への適切な報告、学則に沿った計画的学校運営ができたか。附小だより、校長通信(月1回以上) (2)自己評価制度の適切な運用 学校教育目標達成のためにどのような取組を行ったか。 「職場アンケート」データの改善 職場内人間関係の肯定的評価、困った時に管理職への相談状況 (3)学力テストの平均正答率等、授業を担当した児童の学力状況 分かる授業づくりや肯定的評価、教科が好きな児童の割合（保護者や児童アンケート）	
2 大学との共同研究の充実	(1)先進的な授業改善 （関連4(1) 5（1）） (2)大学との共同研究の取組 （関連4(1) 5（1））	(1)新教科「情報活用科」の創設による教育課程特例校の取組の推進 大学教員による指導の充実 「キュビナドリル」有効活用 (2)インテル STEAMLABO を活用するなど STEAM 教育の取組拡大。 授業実践交流会、小中合同の研究発表大会の工夫と実施	(1) 新教科「情報活用科」等教育課程特例校の取組が順調に進んだか。研修会回数や公開授業数等）キュビナドリルの活用状況。 (2)インテル STEAMLABO を活用した教員数。STEAM 研究の広がりと進展拡大。3年目の取組の評価。	
3 安全・安心な学校づくり	(1) いじめの未然防止、早期・組織対応、特別支援教育充実 (2) 違いを認め合う児童集団 (3)授業規律、生活規律等の徹底 (4) 長期欠席者への適切なアセスメントと支援。相談・支援体制確立。 (5) 感染症等の対応力向上	(1)6 初児生第 20 号 R7.3.6 通知を踏まえ、平時からいじめに備える「校内いじめ対策会議」の的確な開催、情報集約。相談・支援充実とチャレンジルームの適切な活用 (2)教科や特別活動等の様々な取組。 (3)発達段階に応じた授業、生活規律等の共通理解と徹底、校内事故・けがの減少。 (4)附属学校教育相談室の適切な運用 児童・保護者の相談・支援の実施 子ども家庭センターや自治体、警察等関係機関との的確な連携 (5)学級閉鎖等の的確な判断 エビペン研修等学校安全研修実施	(1)文科省チェックリストの活用と指針の不断の見直しをしたか。いじめの把握件数、配慮を要する児童の対応状況把握、個別の支援計画の作成状況。発達支援医・スクールロイヤーへの相談件数等。児童、保護者アンケート結果 (2)学校行事等特別活動の取組目標に学級集団づくりの観点を入れる。 (3)附属小のルールが徹底できたか。保護者アンケート結果等、怪我による保健室来室児童数 (4)SC、SSW 等との的確な連携状況 長欠・不登校児童の相談件数や関係機関の対応状況件数等 (5)学校医や大学との円滑な連携状況 安全研修の実施状況等	

4 附属学校としての新しい文化の創造	(1) カリキュラムマネジメントの推進 (関連 2, 3 (2)5(2)) (2)働き方改革の推進 (3)学校運営協議会制度の効果的な運用(関連 5(5)) (4)実地教育の改善・充実 (関連 2)	(1)学習指導要領に則った教育課程実施状況の確実な把握と新教科「情報活用科」の新設。スポーツフェスティバル、附小っ子学園祭、宿泊行事等の円滑な実施と改善。STEAM 教育の取組充実。 (2)学年主任等ミドルリーダーの把握と声掛けによる組織的な推進。在校時間の適切な自己管理、時間外勤務の適切な取り扱い、時間外会議の原則禁止と会議時間の短時間化等効率的な運用 (3)地域の「教員の知の拠点」をめざす。附属学校ならではの効果的なコミュニティ・スクール推進 新しい地域貢献事業による地域貢献 (4)教育実習総合センターと具体策の検討、さらなる改善策を検討 授業録画配信システムの活用	(1) 新教科「情報活用科」の新設と標準授業時数等の実施状況。大学との共同研究を推進している STEAM 教育の推進状況 (2)時間外勤務手続きの改善状況 時間外勤務時間の縮減状況、労働基準法の遵守状況、ノー残業デー、ノー会議デーへの積極的な取組 (3)学校運営協議会の定期的な開催。研究大会における公立学校教員の参加状況、学校の地域貢献の状況 附属学校公開講座等の検討状況 (4)実地教育学生の実習後のアンケート結果の改善状況 「迷っていたがなりたくなった」授業録画配信システムを活用した取組の実施状況	
5 魅力的な学校づくりの推進のための5つの視点	(1) 校種間連携推進 関連 2 (2), 3 (4)5(6) (2) 新しい特別活動、学校行事の創造。(関連 4 (1)) (3) 知の森・アートの森基金事業推進 (4) 異文化理解教育、国際理解教育推進 (5) 「教員養成の知の拠点化」推進 (関連 4 (3)) (6)その他 入試制度の改善 (関連 5 (1)) ミドルリーダーが成長する学校づくり	(1)小中合同研究発表大会実施 幼・小・中合同の学校安全の取組 学校園間での教員の人事交流。 幼小中合同の取組の推進 新しい入試制度の運用、6 年生の進路指導体制の充実と計画 (2) 1 学期「スポーツフェスティバル」と 2 学期宿泊行事、3 学期「附小っ子学園祭」に再編した学校行事のさらなる充実を図る。 (3) 図書館と中庭改善の完成 図書館の開放 (4)留学生との触れあい、オンラインによる外国児童との交流（カンボジア等）児童・生徒の短期派遣制度の実施。（フィンランド・オーストラリア等） (5)附属学校教員が研修講師となって地域に出かけていく機会や学校を実践研修の場としての活用を進め発信する。(関連 4 (3)) (6)入試日程の早期化等の改善。石倉教授と連携した入試問題改善の取組と就学前施設との連携。 附属学校園間の望ましい連絡進学 の検討。 指導主事や、主幹教諭等で活躍できるミドルリーダーづくり 自治体指導主事・管理職選考受験 推進	(1)小中合同研究発表大会の参加者数 研究授業数等、学校安全の取組状況 人事交流ができたか。子どもや教員の幼小中交流回数や研究の状況等。 新日程入試制度ができたか。6 年生に的確な進路指導ができたか。 (2) 児童・保護者・教員のアンケート結果 (3) STEAM 教育とコミュニティ・スクールの活動場所として整備できたか。 図書館の開放日数 (4)海外からの訪問団や留学生等との交流状況。フィンランド派遣ができたか。オーストラリアとの交流の準備ができたか。 (5)研修講師となった人数と回数 研修の場となった事例や地域の教員の研修会等の開催状況 附属学校公開講座等の検討状況 (6)新入試制度の実施が円滑にできたか 入学準備委員会の運用状況 連絡進学 の在り方の検討状況 大学院進学希望者と在籍状況 主幹教諭の配置状況、管理職選考の受験状況等	

4 学校関係者評価と第三者評価

附属学校運営協議会による学校関係者評価と第三者評価